

韓国高校教師を招聘

日韓・韓日未来パートナーシップ基金共同事業

—両国の一層の連携と連携と発展に向けて—

2026年1月25日～30日

「日韓・韓日未来パートナーシップ基金」共同事業 日韓高校教師の交流事業
参加者：韓国的高校教師50人

経団連と韓国経済人協会（韓経協）が共同で設立した日韓・韓日未来パートナーシップ基金は、共同事業の一環として、1月25～30日の6日間、韓国的高校教師50人を日本に招聘した。

同事業は、未来世代の育成を担い、学校や地域社会へ多大な影響力を持つ高校教師を対象に、相互の理解と交流の増進を図り、未来志向の良好な日韓関係を構築することを目的としている。2024年1月に開始し、今回で5回目。

経済広報センター（筒井義信会長）は、企業や学校への訪問、有識者による講義、歌舞伎鑑賞などの文化体験から構成される一連の行事の企画・運営を担った。

■歓迎レセプション、日韓高校教師の懇談

1月26日、東京・大手町の経団連会館で歓迎レセプションを開催した。

筒井会長は、日本の教育現場の視察や企業訪問・講義や文化イベントなどを通じて、ありのままの「日本」を体験し、理解を深め、日韓両国の架け橋となることを期待すると述べた。

来賓の小路明善日韓経済協会会長、崔暎培駐日韓国大使館経済公使は、温かい歓迎の言葉を送った。

韓国教師団を代表してあいさつしたハナ高等学校の金允求教諭は、国際経営を教えるなかで、日本の企業文化の優れた点を認識しており、今回のプログラムで得た成果を多くの生徒に伝えたいと決意を述べた。

その後、古賀信行日韓文化交流基金会長が乾杯のあいさつをし、レセプション会場で参加者たちが和やかに懇談した。

日韓教師の懇談会では、25年8月に訪韓した日本教師らをはじめ40人余りが参加。教育現場の課題等を巡り活発に議論した。

■有識者による講義～日本の教育課題、社会課題、日韓経済関係等

慶應義塾大学経済学部の赤林英夫教授から、最新の日本の教育政策と課題について、同大学総合政策学部の柳町功教授からは、日韓経済関係の歴史と展望について、それぞれ説明を聞いた。

第一生命経済研究所の的場康子首席研究員からは、日韓共通の社会課題である少子高齢化について、企業のワークライフバランスの事例を交え、説明を聞いた。

いずれも、説明後に活発な意見交換が行われ、両国を比較しつつ、日本の教育、社会、経済に関する認識を高めた。

■企業を訪問～日本企業の経営理念に触れる

住友化学では、「Innovation Center MEGURU」を訪問し、同社の歴史をひもときながら、社会課題の解決に向けた最新の研究開発施設を見学した。

資生堂のグローバルイノベーションセンターでは、1月28日にリニューアルオープンした「Shiseido Beauty Park」を訪問。創業以来受け継がれる「Art & Science」に基づく企業活動について理解を深めた。

A N Aでは、航空機が駐機する整備工場を見学し、安全運航を実現するための企業の取り組みを学んだ。

■独自性に富み、特色ある3校を訪問～日韓の教育課題を共有

成蹊学園は小学校から大学院までの一貫連携教育を行っている。成蹊中学・高等学校では、創立時から続くユニークな教育理念やカリキュラム等に熱心に把握した。

岩倉高等学校では、実習用に設置された鉄道車両や遮断機などの設備に触れた。

都立日比谷高等学校では、ノーベル賞受賞者を輩出した公立進学校の実態に強い関心が示された。

いずれの高校でも、授業視察や施設見学のほか、多くの教師や生徒と交流し、多くの知見を得た。



26年8月には、通算6回目となる日本の高校教師の訪韓を予定している。引き続き、未来志向の日韓関係の構築に向けて取り組んでいく。

以 上



筒井会長（中央）と韓国教師団

一般財団法人

経済広報センター

国際広報部

〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-3-2 経団連会館 19 階

電話：03-6741-0031

<https://www.kkc.or.jp/>

<https://en.kkc.or.jp/>

※本稿の無断転載を禁じます。